

## 論文内容の要旨

氏名	位田 みつる
Factors associated with functional disability or mortality after elective noncardiac surgery: A prospective cohort study  (和訳)  術後機能障害の関連因子の検討:前向きコホート研究	

### 論文内容の要旨

併存疾患を多く抱えた高齢者にも安全に手術が施行できるようになっている。従来、術後のアウトカムとして在院日数や死亡率などがよく評価されてきたが、近年、患者指向型アウトカムである生活の質や生活機能の評価することが推奨されている。しかし、術後の生活機能に関する研究は十分に行われていないため、手術1年後の機能障害および死亡率の発生率およびそれらの関連因子を探索することを目的に研究を計画した。

対象は2016年4月から2018年12月の間に奈良県立医科大学附病院で機能的に心臓手術を受けた患者である。科 院中の患者や自分で生活機能の評価できない患者は除外した。本研究の主要アウトカムは術後の機能障害であり、12項目版WHODAS2.0を用いて評価した。12項目版WHODAS2.0は5つのドメイン、12個の質問で構成され各々の質問が0-4点で評価される。合計得点(0-48)を百分率に換算し、割合が高いと生活機能が悪いと判断される指標である。本研究では、術後1年の時点の割合が35%以上かつ術前から5%以上増加している場合に新規機能障害(POFD: Postoperative Functional Disability)があると定義した。患者背景に加え、簡易栄養評価表を用いて栄養状態を正常、低栄養の危険性あり、低栄養の3群に分類した。

対象者6060名のうち4402名から同意を取得し、3799名が手術を受けた。1年後まで追跡できた患者は2921名であり、124名(4.2%)が死亡し293名(10.0%)がPOFDを発症していた。ロジスティック回帰分析の結果、年齢(odds ratio(OR)1.06, 99.5%信頼区間(CI)1.03-1.08)、体格指数30以上(OR2.56, 99.5%CI1.05-5.19)、症候性脳血管障害の既往(OR1.94, 99.5%CI1.02-3.22)、拘束性肺疾患(OR1.80, 99.5%CI1.03-3.07)、ステロイドの使用(OR2.77, 99.5%CI1.21-5.28)、血清アルブミン値(OR0.55, 99.5%CI0.35-0.85)、栄養状態(低栄養の危険性OR1.55, 99.5%CI1.06-2.15、低栄養(OR2.30, 99.5%CI1.09-4.73))、100以上500未満の出血量(OR1.56, 99.5%CI1.01-2.36)がPOFDや死亡に関係していた。

術後患者の7人に1人が死亡またはPOFDとなり、多くの因子が関与することがわかった。関連因子の中でも栄養状態や肥満などは介入可能な重要な因子と考える。